

モノクロビットマップファイルの見分け方と変換方法

レーザー加工機の制御用ソフトウェア LaserCut でインポートを行い、適切に加工ができるのは、「モノクロビットマップファイル」のみです。

「モノクロビットマップファイル」のことを、白と黒色の2色しか使っていないビットマップファイルのことである、と誤解されることがよくあります。

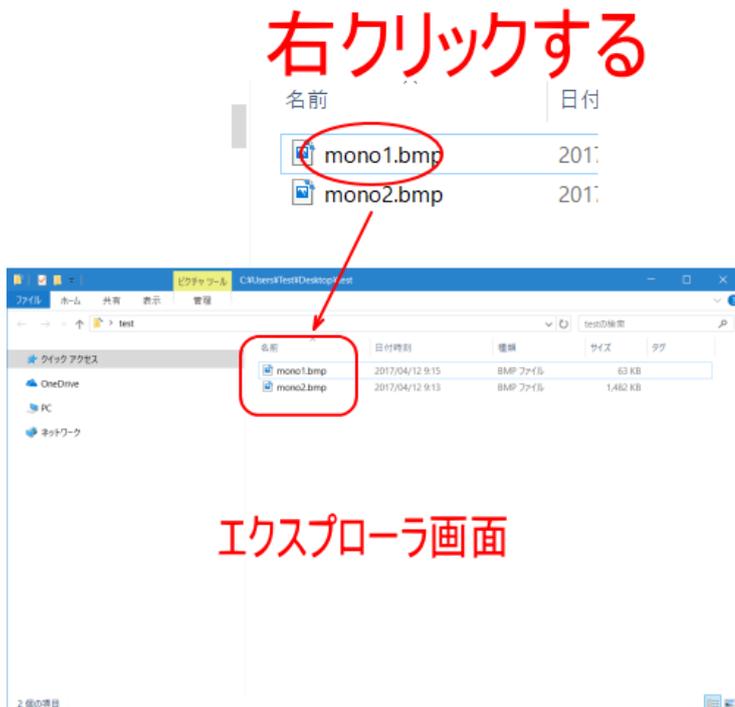
しかし実は一口にビットマップ形式のファイルといっても複数の種類があり、「モノクロビットマップファイル」と「白と黒色の2色しか使っていないビットマップファイル」は必ずしも一致しません。

LaserCut で画像をインポートする際は注意が必要です。

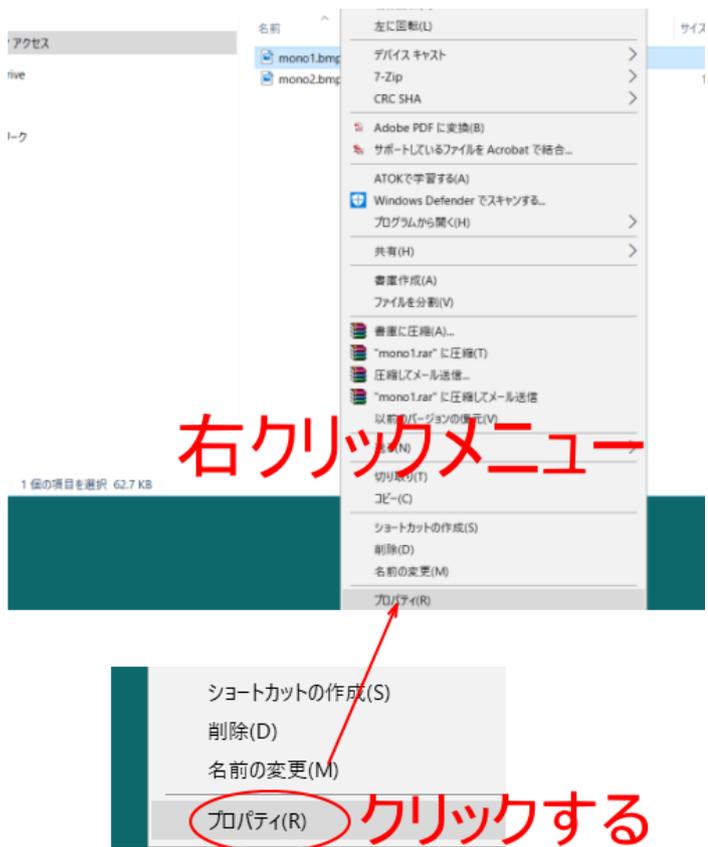
確認方法

エクスプローラで確認するファイルを選択し、右クリックメニューの「プロパティ」で確認します。

- ① エクスプローラで確認するファイルを右クリックします。



② メニューが表示されたら、「プロパティ」をクリックします。



③ プロパティが表示されたら、二つの項目を確認します。

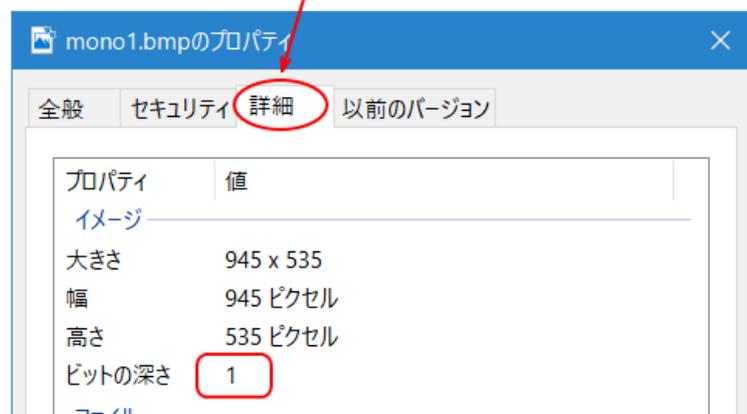
まず、「全般」タブの「ファイルの種類」が『BMP ファイル(.bmp)』であることを確認します。



確認 ①
「全般」タブの「ファイルの種類」が
『BMPファイル(.bmp)』 であること

次に「詳細」タブの「ビットの深さ」が『1』であることを確認します。

「詳細」タブ



確認 ②
「詳細」タブの「ビットの深さ」が
『1』であること

2点の項目を確認し、ともに適切な内容ならば、「モノクロビットマップファイル」です。

変換方法

画像ファイルを「モノクロビットマップ」ファイルに変換するには、Adobe Photoshop 等の画像編集ソフトウェアを使用します。

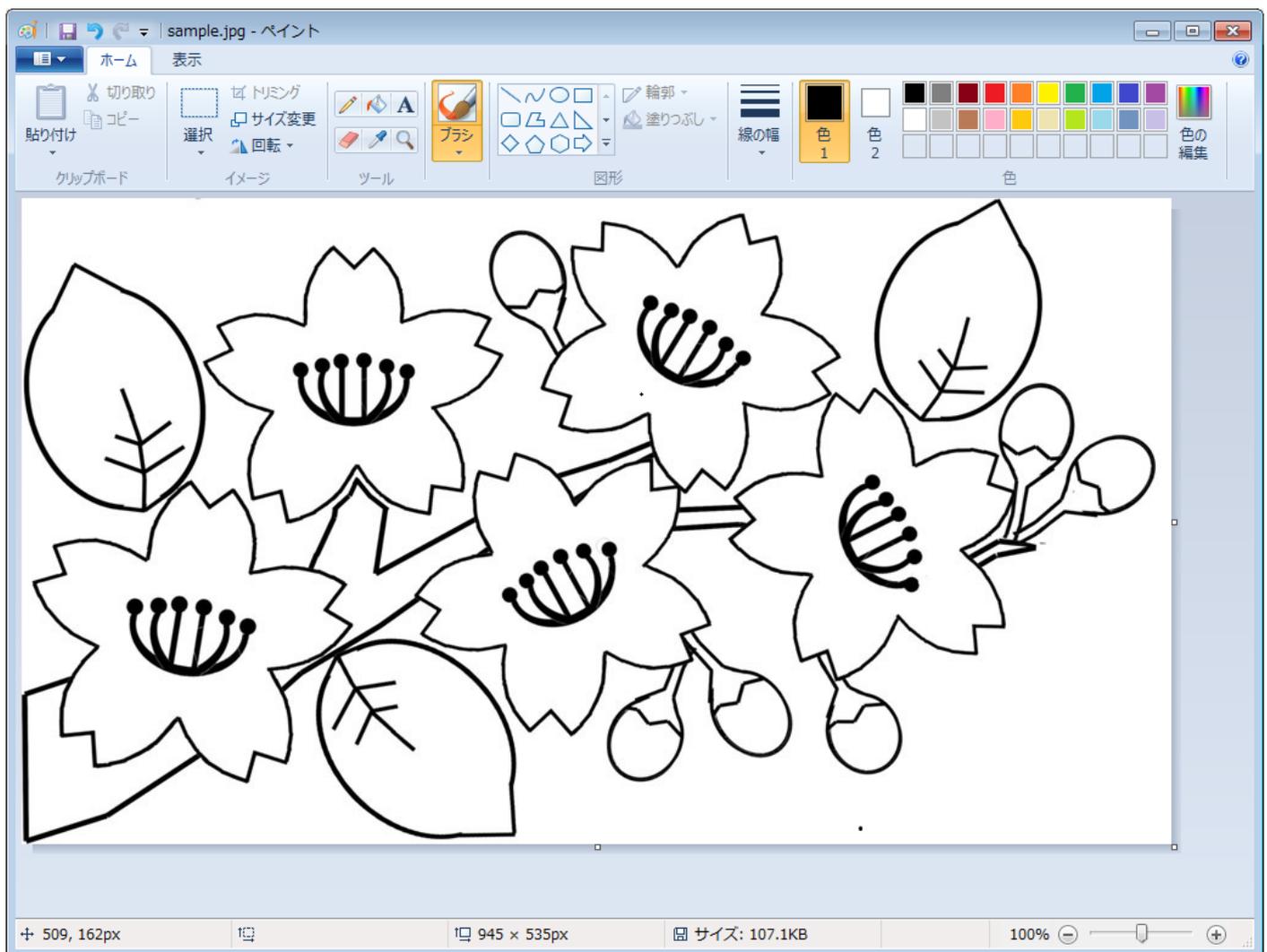
カラー画像を「モノクロビットマップ」に変換する場合、白と黒に2値に変換する必要があるため、必要に応じて適切な画像内容に変換するための編集が必要です。

モノクロ画像の場合などの編集が必要ない場合は、Windows に標準で付属している「ペイント」でも「モノクロビットマップ」ファイルに変換できます。

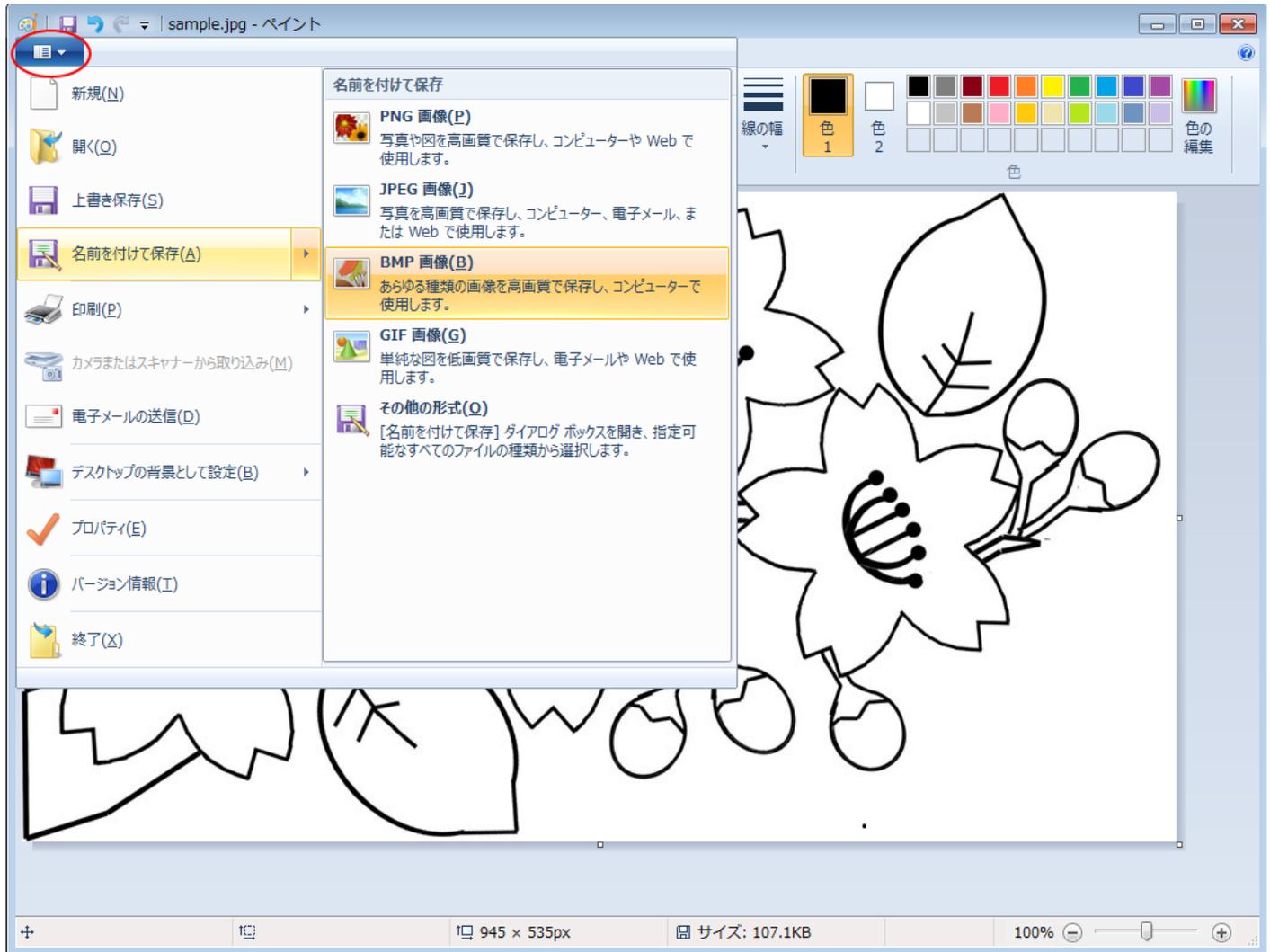
本資料では、ペイントを使用して、「モノクロビットマップ」に変換します。

変換する画像を「ペイント」で表示させます。

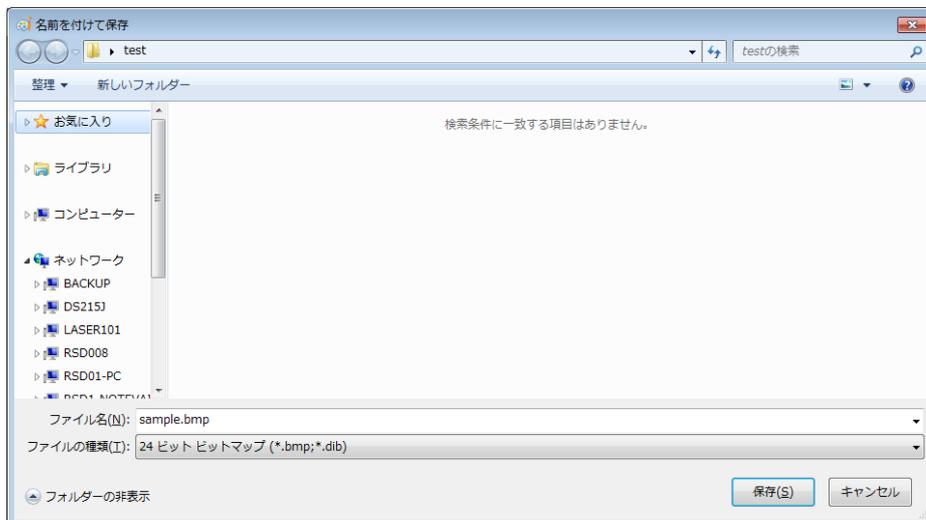
例では sample.jpg という白黒の画像です。これは「モノクロビットマップ」に変換します。



ウィンドウ左上にある[ペイント]ボタンをクリックして、[名前を付けて保存]をポイントします。
名前を付けて保存メニューが表示されるので、[BMP 画像]をクリックします。

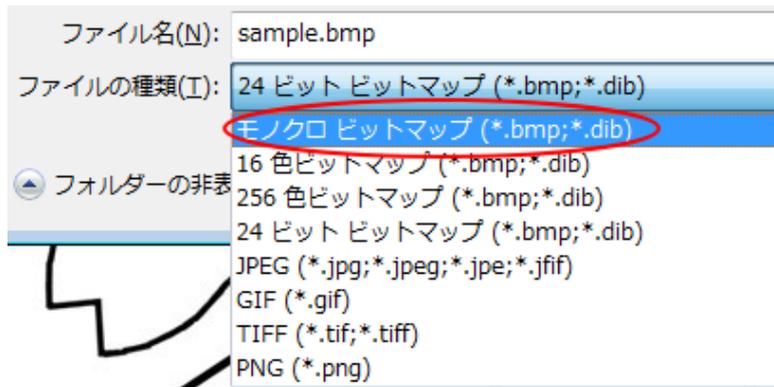


「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。

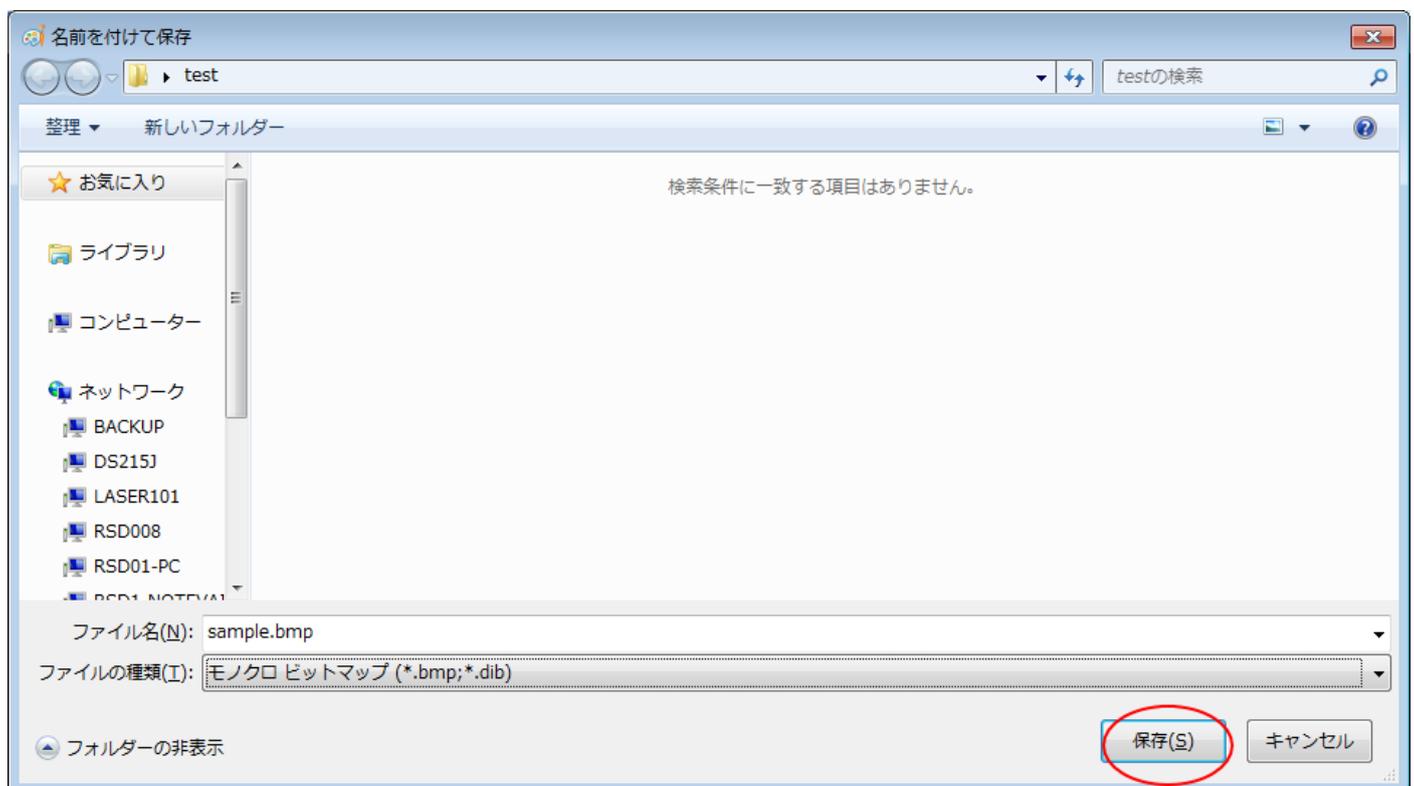


任意のフォルダ、ファイル名を設定します。

そして「ファイルの種類」を「モノクロビットマップ(*.bmp;*.dib)」に設定します。



これで「保存」をクリックすれば「モノクロビットマップ」ファイルとして、保存されます。



ちなみに、カラー画像を「モノクロビットマップ」として保存すると、自動的に白と黒に振り分けられて、変換されます。

